

市の動き

新しい総合計画基本 計画フォーラム開催



まちづくりトークで意見交換するパネリストの皆さん

新しい総合計画基本計画フォーラムは4日、日本現代詩歌文学館で開かれました。

これは同計画を市民の皆さんと共有しまちづくりに取り組む意識の高揚を図るとともに、実効性のある計画を目指して開かれたもので、参加した市民約100人が理解を深めました。

第1部「みんなて描こう未来の北上市」絵画表彰式では、受賞者に伊藤市長から表彰状と記念品が贈られました。

第2部「北上

市総合計画基本計画フォーラム」では、同素案の概要説明とまちづくりトークが行われ、先進事例として能代市での取り組みが紹介されました。また、パネルディスカッション

では、アドバイザーの佐藤徹高崎経済大学地域政策学部准教授から「総合計画はこの市町村も作っているが北上市のように指標を取り入れているところは少ない。次のステップとして、指標の評価を行うためどういう場を作るかが課題。次の市民会議を模索してほしい。それが、北上市の競争力を高めることになる」とのアドバイスがありました。

6人のパネリストの一人として参加した市政企画課の今野課長は「評価、改善見直しのサイクルを確立し、10年後の北上市の姿がぶれずに実現するよう努力していきたい」と意識を新たにしました。

中国・三門峡市友好 訪問団と交流

市と友好都市を提携している中国・三門峡市の友好訪問団(楊樹平市長ら7人)は、

8月25日～27日に当市を訪問。期間中は歓迎レセプションや懇談、企業視察などが行われました。

26日は、市役所本庁舎を訪れ、歓迎式で市民の熱烈的な歓迎を受けた後、市長、関係者との懇談が行われました。

懇談での意見交換で、楊市長はリンゴの栽培について、わせ品種の投入とその栽培技術の指導など5項目を要望。伊藤市長は「いくつか課題もあるので今後、整理、研究させていただく」と回答しました。

また、伊藤市長からは人材交流にかかわり、北上コンピュータ・アカデミーの研修生の受け入れについて、施設に対する国の支援が受けられなくなることを説明。市の負担が増すためこれまでと同じよ



詩歌の森公園内にある「友好亭」で楊市長(右)へ記念のアルバムを渡す伊藤市長

うな(市が費用負担)研修生の受け入れは難しくなることに、理解を求めました。

その後、訪問団は北工業団地内の岩手東芝エレクトロニクス株式会社など4工場を視察しました。

27日は、詩歌の森公園内にある「友好亭」やさくらホールなどを見学。同公園では、伊藤市長から記念のアルバムが贈られるなど、終始和やかな交流となりました。

今後、両市の友好関係の新たなステージへの発展が望まれます。

中央競技団体正規 視察

平成28年に行われる第71回国民体育大会陸上競技の中央競技団体正規視察は8月31日、北上陸上競技場などで実施されました。

財団法人日本陸上競技連盟から視察員として事務局の森泰夫事業部長、森谷真咲氏が視察に訪れました。最初に県市などの概要や施設の状況などについて説明、その後、北上陸上競技場などの現地視察を行いました。



北上陸上競技場貴賓室で施設の説明を受ける森視察員(左から2人目)

講評では、投てき場や補助競技場など使いやすく十分な広さがあると評価しながらも電光掲示板、走路、照明、機器の整備などについて指摘されたほか、「宿泊施設が不足している。近隣地域と協議するとともに、宿泊地と競技場とのアクセスについても検討が必要。また大会が盛り上がるのは地元選手の活躍が一番。審判員の育成も含めて選手強化を早めに進めてほしい」と注文も出されました。

市教育委員会の高橋一臣教育長は「責任重大。今回の指導を生かして、ぜひ成功するよう計画的に検討していく」と話しました。

北上市では、開閉会式、陸上競技のほか新体操・ソフトテニス・バドミントンの開催が予定されています。